

4年 単元名「小木発信プロジェクト ～小木の町はイカの町～」(20時間)

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

イカが能登町の有名な海産物であることを知り、ふるさとの海への誇りを持ち、愛着の心を育む。

2 単元目標

自分たちの町を「イカの町」として能登町の人々に発信するために活動することができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューを通じて、自らの課題を見いだしたりしている。 ②課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	④イカについて調べ、私たちの町がなぜ「イカの町」と言われているのか考えることができる。	⑤課題を解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、協同して活動している。

4 単元の指導計画

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1 ∩ 6	「小木の町＝イカの町」について詳しい人から話を聞く。 ・漁協に行き、イカ釣り漁について学ぶ。 ・地域の方からイカ料理について学ぶ。	・GTや協力者と事前の打ち合わせを行う。 ・どこまで学習しているのか、何を学ぶための学習かを明確にしておく。
二	7 ∩ 9	何について、どのように発信するか考える。 ・調べたことから伝えたいことをランキング化する。 ・どのような方法で発信するのか話し合う。 ・今後の学習計画を立てる。	・アンケートの結果を参考に決める。 ・目的意識を確認する。
三	10 ∩ 15	発信する準備をする。(①「小木の町＝イカの町」の理由) ・紙芝居のストーリーを考える。 ・ストーリーにぴったりの写真を考える。 ・漁協へ写真撮影に行く。(イカ釣り船の内部も撮影) ・紙芝居を仕上げ、読む担当を決める。	・イカ釣り船の出航状況を漁協と確認する。
	16 ∩ 20	発信する準備をする。(②小木のイカ料理) ・レシピ本にしたいイカの部位ごとの料理を話し合う。 ・レシピ本を作成するために、調理実習を行う。 ・レシピ本を作成する。	・部位ごとの料理、小学生でもできる料理を中心に する。 ・調理して終了することのないようにレシピ本作成と合わせて計画する。

外部連携／教材等

【紙芝居作成】 小木漁協 坂東博一さん イカ釣り船 永宝丸の漁師の方々

【イカレシピ本作成】 和平商店：フードコーディネーター 瀬川しのぶさん

宮下順子さん，竹川政枝さん，東山隆子さん

能登里海教育研究所 木下靖子さん

能登町の小学4年生（鵜川小学校，宇出津小学校，松波小学校，柳田小学校）

「イカのほん」一般社団法人 能登里海教育研究所・能登小木港スマイルプロジェクト実行委員会

5 活動の様子



漁協見学の様子



小木イカ調理実習の様子



何をどのように発信するか話し合う



紙芝居の練習風景



レシピ本の作成



完成したレシピ本と一緒に

6 成果・課題

○1学期のアンケートをもとに，常に目的意識と相手意識をもった活動ができた。

○活動時期とイカ釣り船寄港の時期が重なったため，紙芝居作成に大変役立ち良い機会となった。

○小木の地域の方々の協力もあり，二度もイカの調理実習・料理の仕方を教えていただいた。

○教師の考えている発信方法とは違っていたが，児童同士で何ができるか，どのように発信すればよいか，について主体的に考えることができた。

△2つの活動を同時並行で行ったため，時間の余裕がもう少しあるとよかった。

7 子どもの反応やミニ感想

・口，足，顔，肝臓，体，ひれの部分の名前と特徴が知れてよかったです。イカはコリコリした部分が多いんだなと思いました。皮をはぐところが楽しかったです。先生が見本でイカを切っていて，きれいですごかったです。自分でやってみてできると分かったので，家でもやってみたいです。

・私は，漁師さんたちがイカをどうやったらたくさんとれるのか，研究していることを初めて知りました。一本凍結やブロック凍結もあり，それが小木の自慢・ブランドだと分かりました。小木にいて幸せだと思いました。今日分かった「小木の町はイカの町」の理由を早く能登町の4年生に伝えたいです。そして，知ってもらいたいです。